

第72回 医学教育セミナーとワークショップ

2019年 5月 25日(土)AM ~ 26日(日)AM
岐阜大学(医学部キャンパス)

併催 第20回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修

セミナー 生涯学習力としての自己調整学習力を伸ばす

TL 講師：松山 泰（自治医科大学）

WS-1 多様なニーズのある医療系学生を教職協働で支援する

ML 企画：川上ちひろ（MEDC）、船越高樹（京都大学）、堀田 亮（岐阜大学）

WS-2 今、求められる教学データの形 ~過去を振り返り、明日を見つめるために

ML 企画：恒川幸司（MEDC）、浅田義和（自治医科大学）、井戸雅俊（岐阜大学）

WS-3 医療者教育におけるマインドフルネス入門 -私とあなたのセルフケア-

TL 企画：谷口純一・田代雅文（熊本大学）、西屋克己（関西医科大学）、三好智子（岡山大学）

WS-4 行動変容を教える授業設計体験ワークショップ

TL ~初診以外の医療面接も教えよう~

企画：森 洋平（みたき総合病院）、後藤道子・高嶋陽子（三重大学）、阿部恵子（愛知医科大学）、井上千鹿子（日本医科大学）、吉田登志子（岡山大学）、伊東こずえ（九州大学）、早川佳穂（MEDC）

WS-5 シミュレーション教育法を用いて多職種教育を設計しよう

CD 企画：駒澤伸泰（大阪医科大学）、角山香織（大阪薬科大学）、土肥美子（大阪医科大学）

WS-6 エビデンスに基づいた総合試験の作り方 -プログレテストを活用するには

A 企画：松山 泰（自治医科大学）、恒川幸司（MEDC）、笹原鉄平・山本 祐（自治医科大学）

WS-7 臨床実習後OSCE(post-CC OSCE)の

A 企画・運営の工夫を共有しよう

企画：岡崎史子・伊藤彰一・土屋静馬（医療系大学間共用試験実施評価機構）

WS-8 多職種連携(IPW)と卒前多職種連携教育(IPE)とをつなげる

TL -地域コミュニティの文脈から考える

企画：今福輪太郎（MEDC）、園井教裕（岡山西大寺病院）、後藤亮平・春田淳志（筑波大学）

5月25日(土)				
教務事務職員研修との合同WS				
9:00-12:00	WS-1	WS-2		
13:00-17:00	WS-3~	WS-4	WS-5	
17:15-18:30	合同セミナー			
18:45-20:00	合同懇親会			
5月26日(日)				
9:00-13:00	~WS-3	WS-6	WS-7	WS-8

*記号（**TL** 等）は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページをご覧ください。

第73回
愛知学院大
2019/8/9-10

第74回
国際医療福祉大
2019/10/12-13

第75回
岐阜
2020/1/25-26

第76回
岐阜
併催
第21回教務事務職員研修
2020/5/22-24

2019
春

セミナー 生涯学習力としての自己調整学習力を伸ばす

TL

講師： 松山 泰（自治医科大学）

日時： 5月25日(土)17:15～18:30

概要： 「人生100年時代」を迎える我が国において、長い医療人人生の中で自分を進化させる（退化させない）ために必要なのは「自ら学ぶ力」です。自ら学ぶ力を教育心理学ではしばしば「自己調整学習力」と表現され、初等～高等教育の様々な設定で教育学的研究が行われてきました。2010年頃から医療分野でも「自己調整学習力」の涵養が強調されるようになり、その中で我々は医療人としてのアイデンティティ形成と関連付けて自己調整学習力を向上させる教育の在り方を探索しています。今回のセミナーでは我々の研究結果を、Wenger & Laveのcommunity of practice、Deci & Ryanのself-determination theory、Keganのconstructive developmental theoryなどを参照し解説していきます。生涯学習力の基盤となる自己調整学習力をいかに向上させていくか、皆様とともに考えていければと思います。

WS-1 多様なニーズのある医療系学生を教職協働で支援する

ML

企画： 川上ちひろ（MEDC）、船越高樹（京都大学）、堀田 亮（岐阜大学）

日時： 5月25日(土)9:00～12:00（3時間）

概要： 高等教育における学生支援は、入学～在学～卒業までシームレスに実施されることが望まれます。その際には教員や事務職員との協働、さらには学内外問わず専門家や専門機関との連携も期待されます。

このワークショップでは、障害をもっているなど多様なニーズがあるとくに医療系（資格取得をする）の学生の支援に対して、どのように支援すればいいのか具体的な方法を参加者と一緒に考えます。

対象： 学生支援に携わっている教職員、この内容に興味がある者

定員：60名

WS-2 今、求められる教学データの形 ～過去を振り返り、明日を見つめるために

ML

企画： 恒川幸司（MEDC）、浅田義和（自治医科大学）、井戸雅俊（岐阜大学）

日時： 5月25日(土)9:00～12:00（3時間）

概要： データに依拠した医療教育改善を実践していくためには、教学データの経年的な利用が不可欠です。しかしながら、医療教育改善のデータ解析を担当する者が教学データを利用する際には、データの散逸や変質といった問題にしばしば直面します。これらの原因としては、教務事務職員の度重なる異動や、カリキュラム・プログラムの改革などが挙げられます。この場合、過去のデータと現状とが正しく結びつかず、有意義なデータ解析・解釈を行うことが困難になってしまうことにもつながります。そこで、本ワークショップでは、(1) 現状の教務業務を振り返り、(2) 教学データのありべき姿を考え、(3) あるべき姿に改善していくための方策を議論したい、と考えております。

対象： 医療系教務事務職員・IR（Institutional Research）を業務とする教員・職員

定員：50名

WS-3 医療者教育におけるマインドフルネス入門 —私とあなたのセルフケア—

TL

企画： 谷口純一・田代雅文（熊本大学）、西屋克己（関西医科大学）、三好智子（岡山大学）

日時： 5月25日(土)13:00～17:00・26日(日)9:00～13:00（8時間）

概要： 今、この瞬間に起こっている経験に注意を向ける瞑想を通して、精神的な健康を獲得するプログラムであるマインドフルネスプログラムが、医師の感情疲労の症状を改善したと報告され、2017年のMEDCでも医療現場におけるマインドフルネスをご紹介しました。近年、マインドフルネスプログラムが、身体に対する影響についても研究が進められ、実際の治療にも導入が始まっています。また、臨床医のレジリエンスを高め、より良い臨床判断にもつながるとも言われています。さらに、教育現場においても、学生自身のストレスマネジメントを目的として、取り入れられ始められています。本セミナーでは、マインドフルネスプログラムを体験し、精神・身体に与える影響を学び、実際にマインドフルネスプログラムを行っている講師より、その経験や成果を共有します。明日への実践と教育に生かし、このセミナーを通して、マインドフルになりましょう！

対象： マインドフルネスに興味がある教員、指導者、職員、学生、研修医、医療スタッフ

定員：20名

WS-4 行動変容を教える授業設計体験ワークショップ ～初診以外の医療面接も教えよう～

TL

企画： 森 洋平（みたき総合病院）、後藤道子・高嶋陽子（三重大学）、阿部恵子（愛知医科大学）、井上千鹿子（日本医科大学）、吉田登志子（岡山大学）、伊東こずえ（九州大学）、早川佳穂（MEDC）

日時： 5月25日(土)13:00～17:00（4時間）

概要： 生活習慣病の予防や治療のために、患者の行動変容を支援する能力が全ての医療者に求められます。多理論統合モデルは、患者の行動変容ステージを見極め、それに応じたアプローチを行う理論です。この理論に基づき訓練され、行動変容ステージに応じた患者を演じ分けることが可能となった模擬患者を用いることで、生活習慣病患者への個別性を重視したコミュニケーション教育の提供が可能になります。

本ワークショップでは、多理論統合モデルに基づいたシナリオ作成及び模擬患者養成を、グループワークを通して体験してもらいます。臨床研修に関する省令（医師法）が2020年より一部改正され、慢性疾患患者の継続診療を含む一般外来研修が求められることになり、初診患者以外の医療面接に対する需要も広がると考えられます。卒前卒後を問わず、医学教育にかかわる方で、本テーマに興味関心がある方、模擬患者参加型授業の幅を広げたい方は是非ご参加ください。

対象： 卒前、卒後の教育に関わっている方（SP含む、非医療専門職大歓迎）

定員：30名

WS-5 シミュレーション教育法を用いて多職種教育を設計しよう

CD

企画： 駒澤伸泰（大阪医科大学）、角山香織（大阪薬科大学）、土肥美子（大阪医科大学）

日時： 5月25日(土)13:00～17:00（4時間）

概要： 多職種連携教育の必要性は高いが、倫理的問題、参加人数制限、教育空間確保が問題となる。我々は、シミュレーション環境を活用した多職種連携教育の設計と構築を目指している。シミュレーション教育法は、医学教育の様々な分野で活用されているが、基本的な教育原理の理解と設計ができていない限り、円滑に機能しない。今回、シミュレーション教育法の有効性を多職種連携教育に最大限に活かせるためのワークショップを行う。シミュレーション教育法の原理・設計・進め方・継続的質改善を適宜確認しながら、多職種連携教育法への応用をディスカッションする。各施設における多職種連携教育に対するシミュレーション教育法の活用には貢献できれば幸いである。

対象： 医療職全体（医師、歯科医師、看護師、薬剤師等）

定員：25名

WS-6 エビデンスに基づいた総合試験の作り方 —プログレステストを活用するには

A

企画： 松山 泰（自治医科大学）、恒川幸司（MEDC）、笹原鉄平・山本 祐（自治医科大学）

日時： 5月26日(日)9:00～13:00（4時間）

概要： オランダを中心に世界各国でプログレステストという試験方式が広がり、様々なエビデンスが報告されています。この試験は、学習の大きな節目（日本でいう臨床実習前CBTや医師国家試験など）に獲得しておくべき総合的な医学知識を、低学年のうちから繰り返し総合試験形式で出題するというものです。低学年のうちが高得点とならないものの復習を通じて必要な知識を学ぶことができ、学年が進むと試験成績の経年的変化を観察でき、自分の成長を実感したり学習方略を軌道修正ができたりします。単科試験での出題内容の偏りや、合否に執着した試験テクニックや短期記憶に頼る学習を回避できる点でも有用と言われています。このプログレステストは何故か東アジアでの導入が遅れています。科学に由来する試験文化や競争的な大学入試で形成された「学んだことを完璧に回答するのが試験」という価値観と相反するからかもしれません。しかしエビデンスがあるのならば最適な方法を探索する価値はありそうです。このワークショップは①プログレステストの基本概念と最近のエビデンスを学ぶ、②我が国に適合させる工夫を議論する、③プログレステストの作問を経験する、の3部構成となっています。

対象： 医療・介護系の試験問題の運営・作成に関わる方

定員：20名

WS-7 臨床実習後OSCE(post-CC OSCE)の企画・運営の工夫を共有しよう

A

企画： 岡崎史子・伊藤彰一・土屋静馬（医療系大学間共用試験実施評価機構）

日時： 5月26日(日)9:00～13:00（4時間）

概要： 臨床実習後OSCE（post-CC OSCE）では、多大な物的資源、人的資源が必要になるが、経済的負担も含めて各大学ができることには限りがある。しかし全国一丸となつてなるべく質の高いOSCEを実施するためには、様々な工夫をしながら、少ない教育資源を有効に活用していかなければならない。そして、全国の医科大学、医学部には様々な経験・知恵が隠れていると思われる。このWSでは、最初に各大学が実際に行っているOSCEの現状と課題、少ない資源のなかのような工夫のもとに実施しているかの経験・知恵を共有する。その上で、各大学の教員、職員との混成の小グループに分かれ、新たに工夫や改善できる点についてグループ討論を通して明らかにし、最終的に、全体討論で大学同士で共有できる方策や資源がないかどうかについて検討を行う。

対象： Post-CC OSCEの企画、運営、実施に関わる立場の教員、職員

定員：45名

WS-8 多職種連携(IPW)と卒前多職種連携教育(IPE)とをつなげる

—地域コミュニティの文脈から考える

TL

企画： 今福輪太郎（MEDC）、園井教裕（岡山西大寺病院）、後藤亮平・春田淳志（筑波大学）

日時： 5月26日(日)9:00～13:00（4時間）

概要： 社会の複雑化や多様性に応えるために、多職種連携（IPW）による包括的な医療の提供の重要性が認識され、卒前多職種連携教育（IPE）を導入・実施する大学が増えてきています。IPEの目的は、卒後に保健医療福祉の現場で患者・家族中心のIPWの実践ができる専門職者を育成することにあります。そのIPEの学習成果を現場で最大限に発揮するためには、IPEとIPWをシームレスにつなげることが重要な課題の一つとして考えられます。本ワークショップでは、IPEの教育者とIPWの実践者とともに、IPEで目指すものとIPWでの現実的な問題や実際に必要な人材などをざくばらんに話し合いながら、両者の教育や診療実践に対する認識にどのようなギャップがあり、どのように埋めていってほしいかを考えたいと思います。また、「地域コミュニティ」を共通の場として設定して、地域のIPWの現場に学生をどのように関わらせたいのかをIPEとIPWの両視点から考え、その課題と改善を明らかにしていきたいです。

対象： IPWに携わっている（いた）医療、保健、福祉、介護職などの方、卒前IPEの構築に興味のある方

定員：20名



参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2019年 5月 12日(日)

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

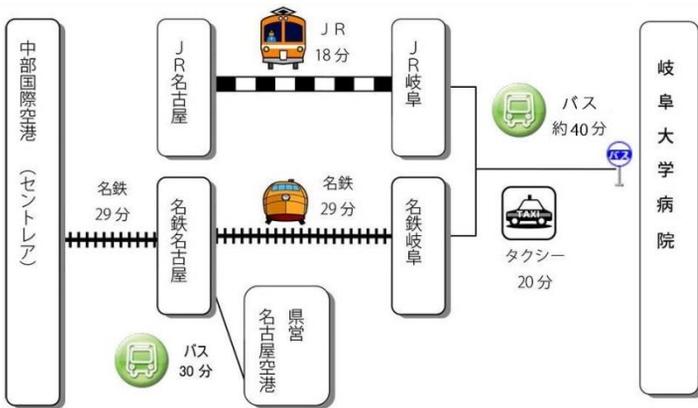
参加費： 2,000円 学部学生無料

懇親会費： 3,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。

参加費は、当日資料ならびに第72回医学教育セミナーとワークショップの報告が収載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。
(学部学生への送付はありません)

会場： 岐阜大学（医学部キャンパス）
(〒501-1194 岐阜市柳戸1-1)



JR岐阜駅 9番のりば / 名鉄岐阜駅 5番のりば
C70系統（清流ライナー、岐阜大学・病院線）

岐阜大学病院バス停（終点）または柳戸橋バス停（終点の1つ手前）で下車

自家用車でお越しの方は外来駐車場をご利用になり、受付まで駐車券をお持ちください。